

# 平成22年度第2回「認知症地域支援体制構築等推進事業」事業報告書

四日市市 介護・高齢福祉課

## 1. 四日市市概要

人口：314,525人（平成23年1月1日 現在）

65歳以上の人口：66,322人

高齢化率：21.1%

介護保険認定者：10,786人（第2号被保険者を含む）（平成23年1月末現在）

認知症で自立度Ⅱ以上の人：5,070人（在宅率24.7%）

在宅生活を支える在宅介護支援センター・地域地域包括支援センター・市の3層構造

在宅介護支援センター 25か所を24地区に設置

地域地域包括支援センター

3か所を8～9ヶ所の在宅介護支援センター毎に設置

## 2. 事業取り組み状況

### (1) 認知症コーディネーターの設置

- ・平成22年から配属している看護師を、23年も継続して介護・高齢福祉課に臨時職員として配属する。
- ・介護保険サービス事業所や家族からの電話や来所相談に対し、医療や生活への適切な指導を実施している。  
6月～2月の認知症の相談件数47件（内来所4件 電話43件） ケースカンファレンス1件
- ・1月27日28日の認知症介護研究・研修東京センターでの「第3回都道府県・モデル地域合同セミナー」に参加、全国の取り組みについて学び、地区の検討会議での推進へ向けての意見を提供する。

### (2) 地域資源マップ作成

#### <目的の設定>

- ・三重県認知症地域支援体制構築等推進会議の1回目において「各在宅介護支援センターが事業を展開していくにあたり、地域でインフォーマルのサービスやネットワークが必要であると認識していても、認知症資源マップ作成を納得して取り組むためには議論が必要である。」と報告を行った。第2回都道府県・モデル地域合同セミナーで「認知症資源マップの作成が目的ではない。この先高齢化社会を支える地域づくりを推進していくための手段のひとつである。」との方向性を確認し、以下のように修正した。

- ① 認知症資源マップ作成は、地域の人々が認知症を自分の問題として取り組み、地域づくりを推進するための手段である。
- ② 認知症資源マップの作成自体は短時間でできるが、検討の時間を充分にとる。
- ③ 具体的対策は認知症資源マップに限らない。

#### <取り組みの状況>

- ① 地域包括支援センター連絡会議（毎月）において、マップ作成の基本方針を検討し、共通の指標として「認知症資源マップガイドライン」を作成する。
- ② 地域包括支援センターが7～8ヶ所の在宅介護支援センターと行うブロック会議（2カ月毎）にて、「認知症資源マップガイドライン」をもとに2年間のスケジュールを決定する。
- ③ 地域の住民に働きかける前に、25ヶ所在宅介護支援センターと地域包括支援センター・担当課にて地区の状況・課題・方向性について打ち合わせ（1～2回）を行う。
- ④ 各在宅介護支援センター毎に設定されている運営協議会の委員（自治会・民生委員会・地区社協・老人会の会長・地区市民センター館長等）の理解を得るために、団体の役職者会議にて説明をする。
- ⑤ 運営協議会で事業の主旨を説明し、地区の状況に合わせ協力を得られる委員を決定し検討会を開催する。
- ⑥ 各在宅介護支援センターで検討会を開催して地域の状況や課題を明確にし、平成23年6月までに具体的な対策を決める。認知症関連の印刷が必要な場合は12月までに原案を作成する。

#### <今後の方向性>

- ・ 地区の住民が知恵を出し合い支援をしていくために話し合いをもつことは時間のかかることであるが、地区に必要な活動を検討することで、一時的な事業に終わらず今後も高齢者が安心して暮らせるまちづくりの支援につなげていけるものとする。
- ・ 認知症対策の総合的な計画を明確にしていく。
- ・ 見守り協力店を明示するためのステッカーを作成する。
- ・ 1月27日28日の認知症合同セミナーで得た全国の取り組みを紹介し、具体的対策に繋がるよう支援する。

### (3) 地域支援体制推進事業の実施

#### (ア) 高齢者見守りネットワークの構築

- ・ 行方不明の高齢者の搜索依頼  
介護保険サービス事業所に一斉FAXし搜索の協力を求めたケース

市外含め10件（22年度）

介護保険サービス事業所に捜索の協力を求める前に発見されたケース

市外含め 6件 (22年度)

上記以外に家族や民生委員・自治会・老人会から24カ所の地区市民センター等へ  
捜索の協力依頼があると、自治会等が捜索して発見されるケースもある。

・平成23年3月23日(水)講演と意見交換会

講演:「認知症にまつわる問題と支援者に望むこと」

講師: 東員病院 院長 村瀬澄夫 氏

(イ) 医療・介護のネットワーク (認知症に関わる研修分)

四日市認知症総合支援ネットワーク(事務局:北地域包括支援センター)

平成22年7月2日(金)

講演:「高齢者虐待の基本的理解=ネットワークの充実に向けて=」

講師: 弁護士 矢野和雄 氏

平成22年8月7日(土)

講演:「高齢者虐待 四日市市での対応方法~現状と課題~」

講師: 四日市市役所 介護・高齢福祉課 小西陽司 氏

平成23年1月14日(金)

講演:「介護のこころ」

講師: みたき総合病院 内科 大沢正義 氏

中地域医療・介護ネットワーク会議(事務局:中地域包括支援センター)

平成23年1月15日(土)

講演:「高齢者総合的機能評価ガイドライン(CGA)の各論」

講師: あこず内科循環器科 加藤尚久 氏

症例検討・グループディスカッション:

「高度の認知症のある独居高齢者への医療介護介入」

司会: 佐藤クリニック 佐藤浩生 氏

(ウ) 認知症の人やその家族の交流会

「認知症の人と家族の会」 事務局:三重県認知症の人と家族の会 三重県支部

場所:川島地区市民センター

参加:中地域包括支援センター 社会福祉士

「街路樹の会(在宅介護家族会)」 事務局:介護者代表

場所:総合会館

参加:介護・高齢福祉課職員

(4) その他

(ア) 認知症ケア多職種研修

講師 認知症高度化推進事業W委員 名古屋市認知症介護指導者  
社会福祉法人 極楽苑長 山口喜樹 氏

	日 程	参加者数	内 容
1	10月27日	82名	パーソン・センタード・ケアにおけるひもときシート講義
2	12月22日	45名	事例によるひもときシート活用(前半)グループワーク
3	2月23日	41名	事例によるひもときシート活用(後半)グループワーク

1回目は始めて聞く用語が多く、内容も難しかったとの声が多々あった。2回目は講師提供の事例を「ひもときシート」の用紙にグループで相談しながら記入する。シートの記入は難しかったが多職種間で様々な意見を聴く事ができたとの声があった。

(イ) 認知症サポーター養成講座

7034名(メイト+サポーター)(平成23年2月28日 現在)  
一人当たりの高齢者数: 9.2人